



与那原町史だより

与那原の自然と人



与那原町史編集事業の1年

『与那原町史 図説編 与那原 教育のあゆみ』発刊



去る2019年3月21日、本町教育委員会は『与那原町史 図説編 与那原 教育のあゆみ』を発刊しました。本書は、琉球国時代から現代までの与那原町の教育の歴史を解説した1冊です。写真や新聞記事、グラフ、証言をふんだんに掲載し、オールカラーで編集しました。価格は1,000円(税込)。町コミュニティセンター2階で販売しております(詳細は7ページをご覧ください)。町立図書館や各区公民館、町内教育機関にも配本されていますので、ぜひこの機会をご覧ください！



発刊記念シンポジウム開催



基調講演を行う吉浜忍氏

『教育のあゆみ』発刊の周知と広報の一環として、2019年6月9日(日)に、発刊記念シンポジウムを町コミュニティセンターで開催しました。日曜日の朝早い時間にも関わらず、町内外から約60名の方々がご来場されました。

シンポジウムは、基調講演と報告の2部構成。基調講演は、元沖縄国際大学教授で町史編集委員長の吉浜忍氏に「『与那原町史 図説編 与那原 教育のあゆみ』発刊の意義」をテーマに、これまでの町史編集事業の歴史と編集の上で重視した点をご講演いただきました。

報告では、『与那原町史 図説編 与那原 教育のあゆみ』を編集・執筆した4名の先生方がご登壇し、執筆にあたって苦労した点や重視した点をご報告いただきました。

来場者からは、「かつて与那原に学校がなかったということを知った。自分が通っていた時代以外の学校教育について知る機会を持ててよかった」という声がありました。



左から深澤秋人氏、近藤健一郎氏、吉浜忍氏、上原忠氏

『与那原町史 図説編 与那原 自然と人』 発刊事業開始

2018年8月末より、『与那原町史 図説編 与那原 自然と人』編集事業がスタートしました。専門部会委員には、当山昌直（沖縄生物学会会長）、崎原恒新（元中学校校長）、佐藤寛之（沖縄生物倶楽部主宰）、清水肇（琉球大学工学部教授）、渡邊康志（GIS 沖縄研究室主宰）の5名の先生が委嘱されました。

『与那原 自然と人』は、聞き取り調査をもとに、これまでの与那原の人びとが自然をどのように利用して生活を営んでいたかを中心に掲載する予定です。発刊は、2022（令和4）年3月末予定です。

聞き取りや野外調査で得られた情報は、毎月の町広報誌や企画展、『町史だより』でも随時ご報告してまいります。今後とも与那原町史編纂事業へのご理解とご協力をどうぞよろしくお願い致します。



町史編集副委員長より
委嘱を受ける当山昌直氏



森下区での聞き取り調査風景

町史編集委員の退任と就任

2019年3月31日に町史編集委員の眞榮平實氏が退任したことに伴い、4月1日に行政経験者である青田治夫氏が新たに町史編集委員に着任致しました。

眞榮平實氏は、2006（平成18）年度から13年間、町史編集委員を務められ、『戦時記録編 与那原の沖縄戦』『資料編 戦後の与那原』の編集や執筆にご尽力していただきました。2019年5月25日に町観光交流施設で行われた町制施行70周年記念式典では、社会福祉功労者のおひとりとして表彰されるなど、多大な功績を残されております。

長年町史編集委員を務めていただきました眞榮平實氏と、後任を引き受けていただきました青田治夫氏にこの場をお借りしてお礼申し上げます。



東浜水路沿いでの野外調査風景



町コミュニティセンターで
開催されたミニ企画展「与那原の自然」

与那原町環境 map

与那原町内の環境は大きく5つに分けることができます。東浜区
造成によって生まれた水路、町内の大部分を占める宅地・公園、大
見武・上与那原区の農地、運玉森・雨乞毛一带の緑地、板良敷から



オリイオオコウモリ
【こーもり】

水 宅 農 緑 磯



ズアカアオバト

水 宅 農 緑 磯



ホテイチク
【ちんぶくだき】

水 宅 農 緑 磯



オキナワトカゲ
【あんだくえーぼーじゃー】

水 宅 農 緑 磯



ハブ
【はぶ】

水 宅 農 緑 磯



チョウゲンボウ

水 宅 農 緑 磯



リュウキュウコゲラ

水 宅 農 緑 磯



キビタキ

水 宅 農 緑 磯



オキナワキノボリトカゲ
【あたく・こーれーぐすくえー】

水 宅 農 緑 磯



シュリケマイマイ

水 宅 農 緑 磯



サンバ
【たか】

水 宅 農 緑 磯



ミツバハマゴウ
【ほーがーぎー】

水 宅 農 緑 磯



ムラサキオカヤドカリ
【あーまん】

水 宅 農 緑 磯



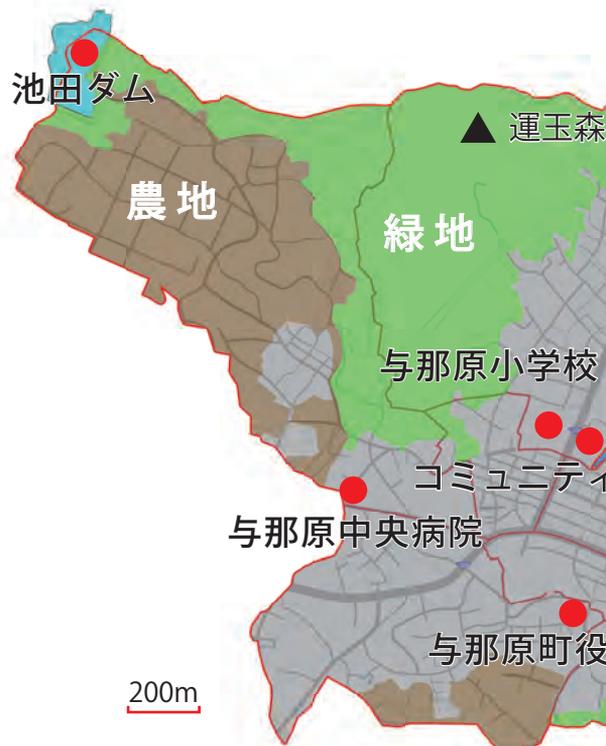
ヒラタクワガタ

水 宅 農 緑 磯



ジュズダマ
【ししだま】

水 宅 農 緑 磯



当添区にかけての磯・岩礁です。ここでは、町内で確認できた動植物の一部をご紹介します。写真の下部に動植物名、聞き取り調査で得られた【うちなーぐちでの名称】、観察のしやすい場所を示してあります。町内には様々な種類の生物たちが暮らしていることがわかってきました。



ツツブキ
【ちーぱっばー】
水 宅 農 緑 磯



イソヒヨドリ
【いしづーさー】
水 宅 農 緑 磯



カワセミ
【かーらんじゅー】
水 宅 農 緑 磯



バン
【くみる】
水 宅 農 緑 磯



ミサゴ
水 宅 農 緑 磯



サギ類
【さーじゃー】
水 宅 農 緑 磯



コガモ
水 宅 農 緑 磯



ゴイサギ
【ゆーがらさー】
水 宅 農 緑 磯



オオウナギ
【んなじ】
水 宅 農 緑 磯



イソアワモチ
【うみほーい】
水 宅 農 緑 磯



モンパノキ
【はますーき】
水 宅 農 緑 磯



ヒジキ
【むー】
水 宅 農 緑 磯



ハナマルユキダカラ
【うしもーもー】
水 宅 農 緑 磯



カンギク
【ちんぼーらー】
水 宅 農 緑 磯

「与那原の自然と人」バックナンバー

与那原町史編纂係では、これまで11回にわたって、広報よなばるに自然編に関するコラムを掲載してきました。調査で得た情報を町民の皆さまにお伝えする大切な機会です。このページでは、全11回の中から4つのコラムをピックアップして再掲載しています。

2019

4月

ヒジキ

与那原のヒジキ (4月号掲載)

春になると、岩礁の上で漁協の職員がヒジキを収穫する姿をよく目にします。3～5月頃収穫のピークを迎える与那原のヒジキは、ホンダワラという海藻の仲間です。中城湾内は県下屈指のヒジキの生育地で、毎年平均55トンものヒジキが出荷されます。

現在では煮物やジュシーとして食べられるヒジキですが、昔はその他にも、ミネラルを豊富に含む畑の肥料として重宝されていたようです。

海の幸は巡り巡って、人々の生活にも恩恵をもたらしていたのです。

5月

ヨナバルマジク



6月

かたつむり



7月

波浪石



ヒジキ



ホンダワラ



収穫風景

8月

掲載なし



9月

バン



与那原にもあった！～波浪石～ (7月号掲載)

板良敷から当添へ向けて海岸沿いを歩いていると、与那原東小学校付近のサンゴ礁リーフの上に岩石がゴロゴロと転がっています。一見、リーフと区別がないように思われますが、実はこれらの岩石はおよそ2000年前に大波で海底から打ち上げられたものだと考えられています。

同様の岩石が宮古や石垣島にもあり、こちらは津波によって移動したとわかるため「津波石」と呼ばれます。一方、与那原の岩石は地震によって発生した津波か台風にもともなう高波で移動したのか、その原因が特定できないため「波浪石」と呼ばれています。

あまり知られていませんが、2000年前に起きた自然現象を伝える貴重な資料です。お散歩や潮干狩りなどにお出かけの際はぜひ眺めてみてください。

参考文献：河名俊男「沖縄県南東部とその周辺島のサンゴ質堆積物から推定される約3400年前の大波の襲来」
琉球大学教育学部紀要,2006,265-271 ページ



板良敷の波浪石

暮らしのなかのススキ (11月号掲載)

10月
ヤギクサ



11月
ススキと
シバサシ

12月
水路の鳥



夏の暑さがやわらいだ頃に白い穂を出すススキ、地元ではグシチャーやゲーンと呼びます。現在おこなっている与那原町の聞き取り調査では、ススキの穂先を利用して箒(ほうき)をつくったり、薪(まき)を燃やす際の焚きつけとして枯れた葉をつかったりしたというお話がありました。

旧暦8月10日に行われるシバサシ行事では、3本のススキの葉を結んでサンをつくり、クワの枝とたばねたものを魔除けとしてカヤブチ(茅葺)屋根に差したり、屋敷の四隅に置いたそうです。その他にも、墓の戸を開ける際のヤナムン除けやマブヤーグミにもサンが用いられました。1本のススキでつくるサングラーは、主に食べ物を持ってどこかへ出かける際に魔除けとして添えられました。

ススキは日常的な用途から行事まで、さまざまな利用がある植物だったようです。もし、「こんな使い方もあった」などの情報がございましたら、町史までお知らせください。



ススキ



サン



サングラーをモチーフにした
ピンバッジ

カーサの使いかた (1月号掲載)

「ムーチービーサ」の季節となりました。この沖縄が一年でもっとも冷え込む頃でも青々とした葉を広げているのが、ゲットウです。

ゲットウは主に二つのウチナーグチで呼ばれます。一つは「サンニン」です。これは種子の漢方薬としての名前「砂仁(シャジン)」が由来とされています。

もう一つは「カーサ」で、これは主に葉っぱを指して言います。カーサで米粉を包みシンメーナービーで蒸したものが、「カーサムーチー」です。ムーチーを作り、歳の数だけ軒下に吊り下げた風景も、珍しくなりました。

カーサムーチーのように人々は道具としても植物の葉を活用してきました。「包む」だけでも、ゲットウをはじめバナナ(バショウ)、ビロウの葉が使われていたという話を聞き取り調査で聞くことが出来ました。また食べ物を載せるお皿として、オオハマボウやクワズイモが使われていました。

葉自体を「食べる」以外にも、植物は人々の食事に重要な役割をもっていたようです。



ムーチー



オオハマボウ



バナナ

2020

1月
カーサ

2月
緑地の鳥



3月
浜下り



野外調査実施中

与那原町史では2018年度より町内の自然環境を記録するための野外調査を行っています。



最近では人と自然の関わりが希薄になり、自然を意識することも少なくなっていますが、改めて観察すると、思いのほか豊かな与那原の自然に驚かされます。2021年度までに町内全域をくまなく巡回する予定です。宜しくお願い致します。



既刊資料のご案内

町史既刊資料は、町立図書館で閲覧できます。また、コミュニティーセンター2階の町史編纂係では、平日の8:30～17:15の業務時間内に販売も行っております。ご活用ください。

与那原町史 序説・むかしよなばる	昭和63年3月	2,000円
よなばるの民話	平成2年3月	1,000円
与那原の学童集団疎開 第1部—体験集	平成7年8月	1,500円
与那原の学童集団疎開 第2部—資料編	平成10年3月	2,000円
沖縄演劇の巨星・伊良波尹吉物語 奥山の牡丹	平成12年3月	1,890円
与那原町史 資料編1 移民	平成18年6月	1,500円
与那原町史 戦時記録編 与那原の沖縄戦	平成23年3月	町内2,500円 町外3,000円
与那原町史 資料編 戦後の与那原	平成28年3月	2,000円
与那原町史 図説編 与那原 教育のあゆみ	平成31年4月	1,000円

情報募集

町内でシュロ(する)、メドハギ(そーろめーし)、ホテイチク(ちんぶくだき)、ジュズダマ(ししだま)の生えている場所、ミフウズラ(うじら)、ホタル類、フクロウの仲間、アカショウビン、小型のコウモリが見られる(見られた)場所、および牛、馬、豚、アヒル、在来ニワトリを飼育しているお宅を探しています。

それに関連して見たことがある、心当たりがある方は、気軽に町史編纂係までお知らせ下さい。

与那原町史だより 第10号 令和2年3月1日発行

与那原町教育委員会 生涯学習振興課 町史編纂係
〒901-1303
沖縄県島尻郡与那原町字与那原712番地
与那原町コミュニティーセンター2階
TEL: 098-871-9981 FAX: 098-871-9982